

# Q&A

## 一般質問

若谷 修治 議員  
市民グループ未来の会



コロナに負けない  
免疫力アップの取組を

**Q** コロナに負けない免疫力アップの取組として、

①口に食べ物がある間は飲み物を飲まないことで、唾液により食品を無毒化し発酵力を高める。また、無添加の発酵食品を選ぶなど、腸内を発酵環境にする。

②小魚を頭ごと食べる。野菜は生で食べるより味噌汁などにしてファイトケミカル抗酸化成分いっぱいのスープごと食べるなど、微量栄養素をとる。

③「あいうべ体操」をすることで口呼吸がなくなり、免疫力の無駄づかいが減るなど、一つからでもこれらの取組を学校給食や家庭で実践してはどうか。

**A** 学校給食の献立は、児童生徒の発達段階に応じて必要な栄養がバランス良く取れるように工夫、作成されています。腸内環境を整えるのに有効といわれている乳製品、発酵食品や食物繊維の摂取、微量栄養素についても考慮し、計画的、積極的に献立の中に取り入れるようにしています。

今後は免疫力をアップするために

必要な、十分な睡眠、適度な運動とともに、バランスの取れた食事を心がけることについて、教育委員会が各家庭に配布している食育啓発資料を通して家庭に啓発していきたいと考えています。

(教育長)

農業経営収入保険助成金  
制度の創設を

**Q** 農業者の安定した収入、ひいては安定した生活につながり、あらゆる損害による収入減少が保障の対象となる農業経営収入保険の助成制度を創設してはどうか。

**A** 農業経営収入保険制度は、農業経営の安定を図り、農業の健全な発展に資することを目的としたものであり、意欲のある農業経営者の取組の促進にもつながると期待しています。ただ、本県では比較的災害が少なく保険加入への意識が低いことから加入率も伸び悩んでいるとお伺いしています。本保険制度については、国費による支援もあることから、本市において保険料の一部を助成することは、現時点では難しいと考えています。

今後については、他市町の動向を注視していきたいと考えています。

(市長)

東原 章 議員  
市民グループ未来の会



ため池の安全対策は

**Q** 生活道路として使用しているため池の堤防に転落防止柵等を取り付ける考えは。

**A** ため池に転落防止柵等の工作物を設置する場合には、ため池の保全に関する県条例により、あらかじめ知事の許可を受けなければならぬこととなっており、県に確認したところ、「転落防止柵等の基礎設置に伴う掘削が浅い場合には許可は可能だが、掘削が深くなると、堤防を傷める危険が高くなることから許可が難しくなり、ため池ごとの協議が必要である。」とのことでした。

いづれにしても、後を絶たないため池などへの転落事故を防ぐため、ため池の堤防における転落防止柵の設置については、地域の方々の声を聞くとともに、県、ため池管理者、道路管理者、警察、消防など関係機関と協議をする中で検討していきたいと考えています。

(建設経済部長)

ふるさと納税の  
返礼品の充実を

**Q** 市内の名所を巡るツアーとして、瀬戸の夕日と島々を巡るクルージングや天狗マラソンへの参加資格など、本市に来てもらう機会を提供できるような返礼品を増やす考えはあるか。

**A** これまで寄附件数や寄附金額の増加だけでなく、さらなる本市特産品のPR、地元企業の活性化を図るため、寄附者が利用しやすい仕組みづくりや、魅力のある返礼品の提供に努めてきましたが、昨年6月の国の指定制度導入以降、他の自治体においても、社会課題の解決や地域ブランド戦略の一環としてふるさと納税制度を活用するなど、新たな潮流も見られます。

こうしたことから、本年度において、地場産品に加え、市内の名所を巡る体験ツアー等の体験型の返礼品を提供することも検討していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、現状では事業の実現には至っておりません。返礼品の充実については、他市町の事例も参考に本市にふさわしい取組を進めていきます。

(副市長)

### 質問の 主な項目

・生涯学習・スポーツの充実に  
ついて